

高金利通貨ファンド

追加型投信／海外／債券

受益者の皆さまへ

毎々格別のお引き立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

さて、ご投資いただいております「高金利通貨ファンド」は、2019年3月8日に第130期決算を行いました。

当ファンドは、新興国を中心とする世界の高金利通貨建債券に、主としてグローバル高金利通貨マザーファンドを通じて分散投資を行います。当作成対象期間につきましても、これに沿った運用を行いました。ここに第125期から第130期までの運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

作成対象期間 2018年9月11日～2019年3月8日

第125期	決算日：2018年10月9日	
第126期	決算日：2018年11月8日	
第127期	決算日：2018年12月10日	
第128期	決算日：2019年1月8日	
第129期	決算日：2019年2月8日	
第130期	決算日：2019年3月8日	
第130期末 (2019年3月8日)	基準価額	4,305円
	純資産総額	5,192百万円
第125期～ 第130期	騰落率	8.9%
	分配金合計	120円

(注1) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率を表示しています。

(注2) △(白三角)はマイナスを意味しています(以下同じ)。

当ファンドは投資信託約款において、運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記のホームページにアクセスし、「基準価額一覧」等から当ファンドの名称を選択いただき、ファンドの詳細ページから閲覧、ダウンロードすることができます。また、運用報告書(全体版)は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

■運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター **0120-104-694**

(受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで)

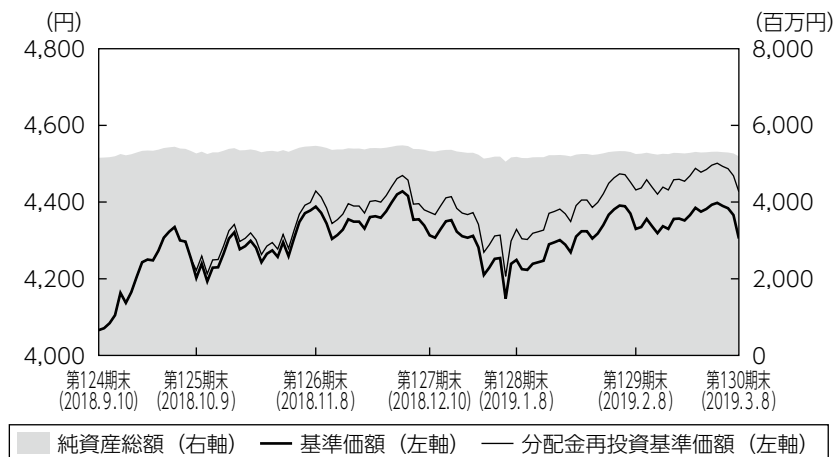
お客さまのお取引内容につきましては、購入された販売会社にお問い合わせください。

アセットマネジメントOne株式会社

東京都千代田区丸の内1-8-2 <http://www.am-one.co.jp/>

運用経過の説明

基準価額等の推移



第125期首： 4,066円
 第130期末： 4,305円
 (既払分配金120円)
 騰落率： 8.9%
 (分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまが利用するコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。
- (注4) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。
- (注5) 当ファンドはベンチマークを定めておりません。

基準価額の主な変動要因

当ファンドでは、グローバル高金利通貨マザーファンド（以下、マザーファンド）を通じて、新興国を中心とする高金利通貨建ての国際機関債や政府関係機関債、州政府債を中心とする信用力の高い公社債を実質的な主要投資対象としています。当作成期間前半については、前作成期間末にかけてトルコリラが大幅下落したことで、主要国の金融引き締めに伴う新興国資産への警戒感が最高潮に高まっている状態からの始まりとなったものの、通貨水準が調整されたことに伴いトルコの経常収支が改善するなど過度な警戒感が後退したことに加え、他の新興国への波及リスクに対しても懸念が和らいだことなどから、新興国資産は総じて堅調に推移しました。当作成期間後半は、世界的な景気減速懸念が浮上したことで、一時的にリスク回避的な動きとなる場面も見られたものの、米国の追加利上げ観測が大幅に後退するなど、外部環境の改善が新興国資産に追い風となったことなどから、新興国資産は一時的な調整の後で底堅く推移しました。第125期首に4,066円で始まった基準価額は、新興国資産が堅調な推移を見せる中で4,400円台まで上昇したものの、調整局面では4,200円台まで下落、その後は外部環境の改善を背景に値を戻し4,425円で当作成期間末を迎えました。（文中の基準価額は当作成期間における分配金（累計）を単純に加算しています。）

1 万口当たりの費用明細

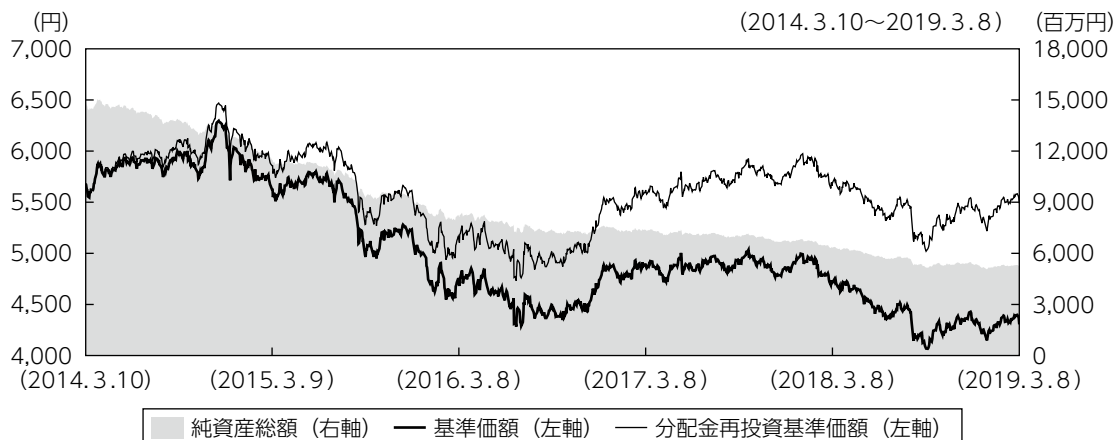
項目	第125期～第130期 (2018年9月11日 ～2019年3月8日)		項目の概要
	金額	比率	
	(a) 信託報酬	23円	
(投信会社)	(10)	(0.238)	
(販売会社)	(11)	(0.265)	
(受託会社)	(1)	(0.026)	
(b) その他費用	0	0.009	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、外国での資産の保管等に要する費用 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用
(保管費用)	(0)	(0.007)	
(監査費用)	(0)	(0.002)	
合計	23	0.539	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入してあります。

最近5年間の基準価額等の推移



- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまが利用するコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、2014年3月10日の基準価額に合わせて指数化しています。

	2014年3月10日 決算日	2015年3月9日 決算日	2016年3月8日 決算日	2017年3月8日 決算日	2018年3月8日 決算日	2019年3月8日 決算日
基準価額 (分配落) (円)	5,682	5,623	4,715	4,890	4,713	4,305
期間分配金合計 (税引前) (円)	—	240	240	240	240	240
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	3.1	△12.2	9.3	1.3	△3.5
純資産総額 (百万円)	14,864	11,492	8,176	7,378	6,334	5,192

- (注1) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。
- (注2) 純資産総額の単位未満は切り捨てて表示してあります。
- (注3) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注4) 新興国を中心とする世界の高金利通貨建て債券に分散投資を行うという当ファンドのコンセプトに適した指標等がございません。よって、ベンチマーク等は特定していません。

投資環境

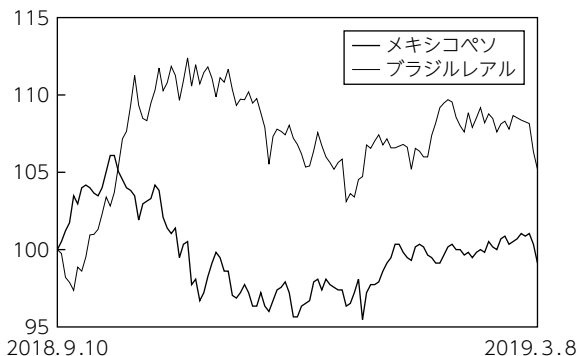
●債券市場

債券市場では、当作成期間前半は主要国の金融正常化などを受け世界的に債券利回りには上昇圧力がかけやすい市場環境ではあったものの、前作成期間に比べ新興国資産に対する警戒感が大幅に後退したことや、割安感も見られる水準であったことなどを要因に、投資対象国の債券利回りは概ね低下基調での推移となりました。当作成期間後半にかけては、F R B（米国連邦準備制度理事会）が追加利上げに対するスタンスを大幅に後退させるなど、外部環境が改善したことを受けて一部の新興国では利下げを模索する動きも散見されたことなどから、投資対象国の債券利回りは低下基調を維持しました。投資国の債券利回りは、資本流出圧力の減退やインフレ統計にピークアウトする動きの見られたトルコ、財政改革の進展が期待されたブラジルのほか、オーストラリア、インドネシア、インド、南アフリカ、ロシアの債券利回りが低下（価格は上昇）しました。政治的不透明感の見られる英国やメキシコのほか、ポーランドの債券利回りは横ばいとなりました。

●為替市場

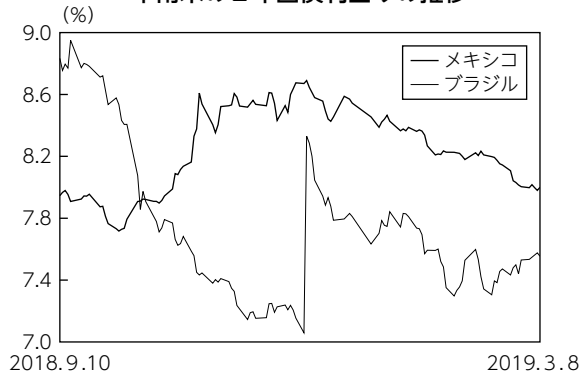
為替市場では、世界的に金融環境が引き締め的となる中でも、新興国資産に対する過度な警戒感が後退したことから底堅い推移を見せたものの、景気鈍化懸念などを背景に世界的に株式市場が調整した場面では下落する場面も見られました。最も、当作成期間末にかけては、外部環境の改善が新興国資産への追い風となったことなどから、高金利通貨は強含む流れとなり、投資対象国の通貨は堅調に推移しました。投資国の通貨は、資本流出圧力の緩和が意識されたトルコリラの上昇幅が大きいほか、ブラジルレアル、インドネシアルピア、インドルピー、南アフリカランド、ロシアルーブル、英ポンドが上昇しました。一方で、相対的な下げ幅は大きくないもののメキシコペソ、豪ドル、ポーランドズロチは下落しました。

中南米通貨の対円レートの推移

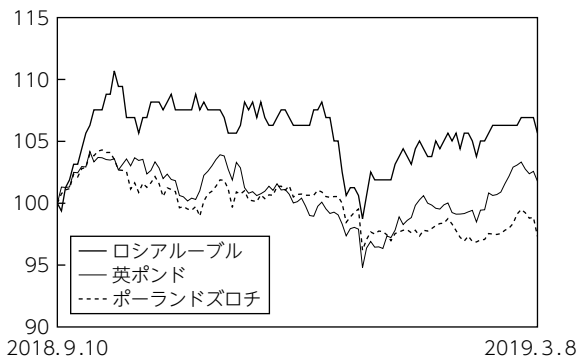


※2018.9.10を100として指数化。

中南米の2年国債利回りの推移

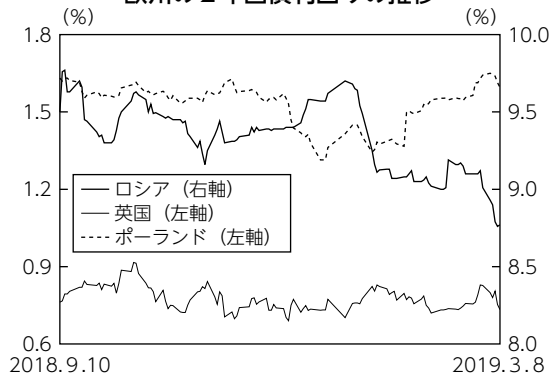


欧州通貨の対円レートの推移



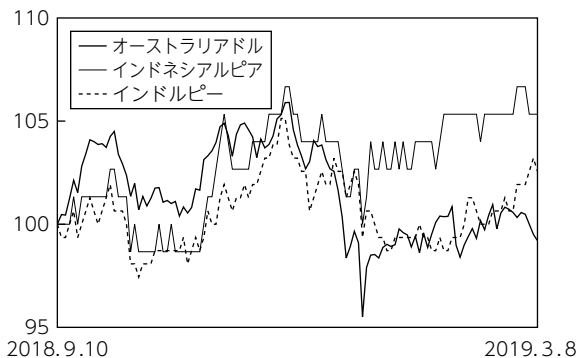
※2018.9.10を100として指数化。

欧州の2年国債利回りの推移



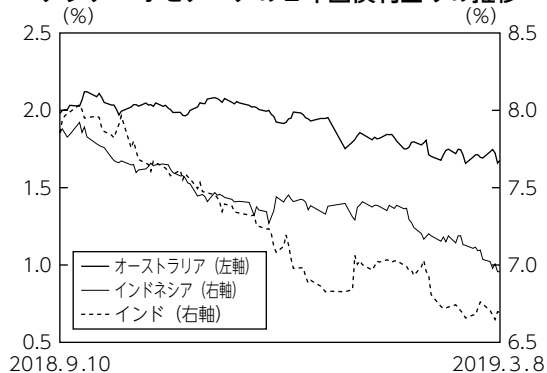
※ロシアは2年物スワップ金利を表示しています。

アジア・オセアニア通貨の対円レートの推移

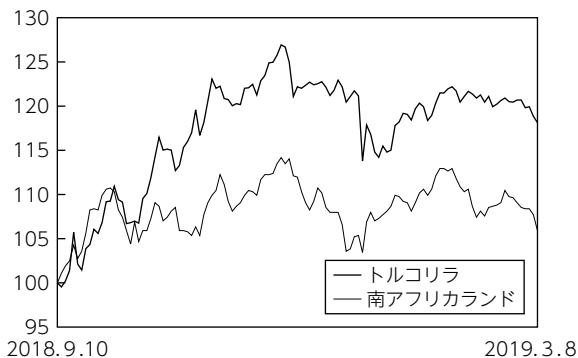


※2018.9.10を100として指数化。

アジア・オセアニアの2年国債利回りの推移

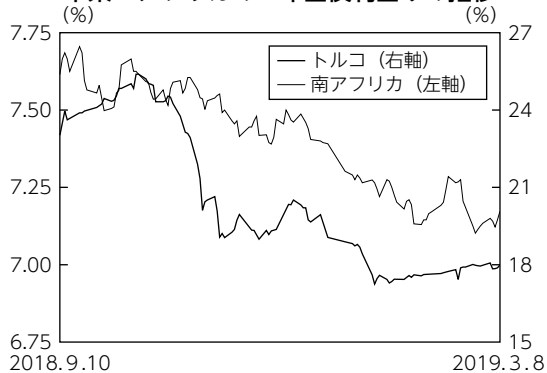


中東・アフリカ通貨の対円レートの推移



※2018.9.10を100として指数化。

中東・アフリカの2年国債利回りの推移



※南アフリカは2年物スワップ金利を表示しています。

ポートフォリオについて

●当ファンド

マザーファンドの高位組み入れを維持しました。

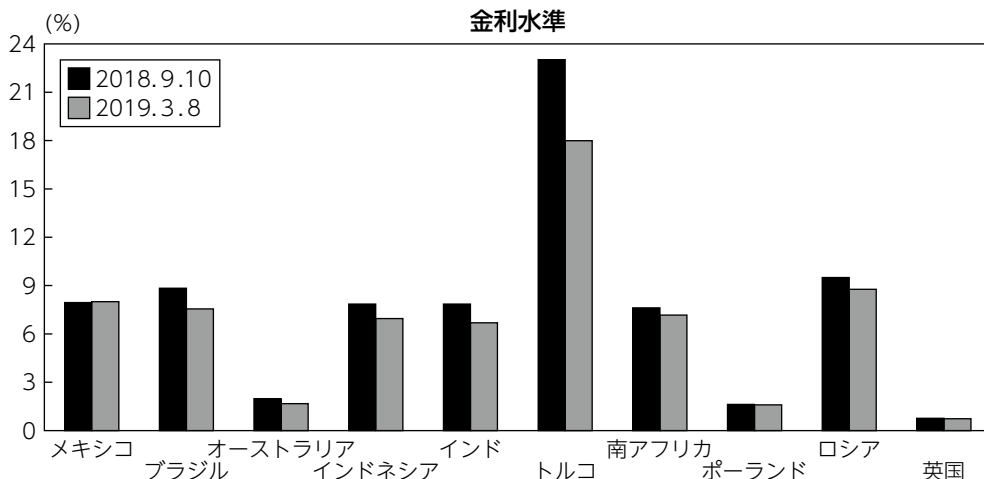
●グローバル高金利通貨マザーファンド

新興国を中心とする世界の高金利通貨建ての国際機関債や政府機関債等の信用力の高い公社債に投資を行い、組入債券の平均残存期間を1-3年程度とすることで金利変動リスクを低減し、投資信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行いました。

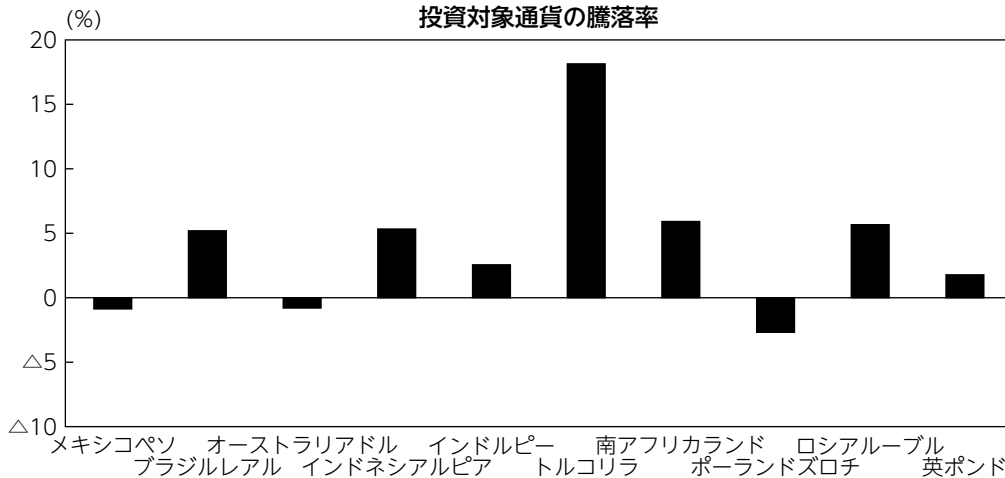
通貨配分に関しては、北米・中南米、アジア・オセアニア、中東・アフリカ、欧州の4地域についてそれぞれ25%程度を基準とし、4地域毎に各国の金利水準や金利・為替動向、流動性等を勘案して配分を行いました。当作成期間では、市場動向等を睨みながら適宜比率の調整を実施し、特にトルコリラの組入比率を引き上げました。当作成期間末の通貨配分は、ブラジル12.8%、メキシコ12.8%（以上、北米・中南米）、オーストラリア8.1%、インド8.4%、インドネシア8.5%（以上、アジア・オセアニア）、南アフリカ12.1%、トルコ12.0%（以上、中東・アフリカ）、ロシア12.7%、英国6.3%、ポーランド6.4%（以上、欧州）としました。

組入債券の平均残存年数、平均デュレーションは、当作成期間末時点で平均残存年数は約1.4年程度、平均デュレーションは1.2年程度としました。

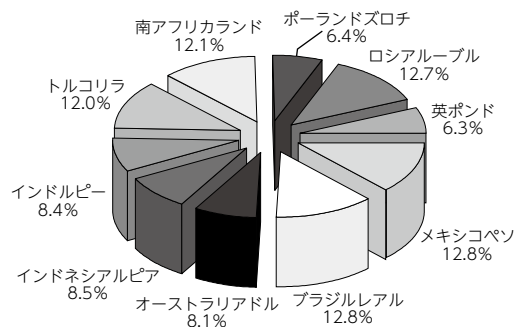
また、国際機関債を中心に投資を行い、ポートフォリオの平均信用格付けはAAAとしました。



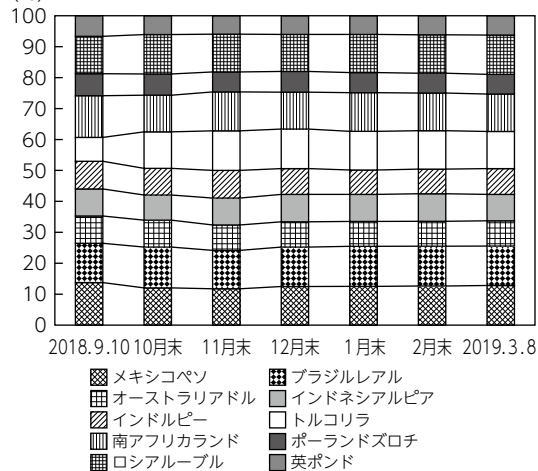
投資対象通貨の騰落率



マザーファンドの債券通貨別構成比 (2019年3月8日)



マザーファンドの債券通貨別構成比の推移



※マザーファンドの債券通貨別構成比のグラフは、マザーファンドの組入債券全体に対する各通貨別の構成比を示したものです。

ベンチマークとの差異について

新興国を中心とする世界の高金利通貨建て債券に分散投資を行うという当ファンドのコンセプトに適した指標等がございません。よって運用の目標となるベンチマークを設けていないため、グラフは掲載しておりません。

分配金

収益分配金につきましては運用実績等を勘案し、以下の表の通りとさせていただきます。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

分配原資の内訳（1万口当たり）

項目	第125期	第126期	第127期	第128期	第129期	第130期
	2018年9月11日 ~2018年10月9日	2018年10月10日 ~2018年11月8日	2018年11月9日 ~2018年12月10日	2018年12月11日 ~2019年1月8日	2019年1月9日 ~2019年2月8日	2019年2月9日 ~2019年3月8日
当期分配金（税引前）	20円	20円	20円	20円	20円	20円
対基準価額比率	0.474%	0.454%	0.462%	0.468%	0.460%	0.462%
当期の収益	20円	20円	20円	20円	20円	20円
当期の収益以外	-円	-円	-円	-円	-円	-円
翌期繰越分配対象額	533円	540円	545円	548円	556円	559円

(注1) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金（税引前）」の額が一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金（税引前）」の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

(注3) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

今後の運用方針

世界経済については、主要国を中心に景気の鈍化懸念が台頭しているものの、底堅い推移を継続するものと見ています。主要国を中心とする金融政策の正常化は緩やかなものに留まると見込まれることから、外部環境は新興国への下支えとなると見ています。また、経済ファンダメンタルズ（基礎的条件）は改善していることや相対的に高い金利水準を享受する動きは継続すると見込まれることから底堅い推移を予想しています。

債券相場は、主要国の金融正常化ペースが鈍化するとの見方から世界的に金利上昇圧力は高まりにくく、新興国の相対的な金利水準の高さが投資家の需要を集めると見ています。

為替相場では、主要国では成長格差などから米ドルが選好されやすい一方で、世界経済の先行き不透明感が強まる局面では円が選好されやすいと考えています。高金利通貨は、中国景気などを睨みながら金融市場のボラティリティが上昇する場面では、値動きの荒い展開も想定されます。しかしながら、外部環境の改善を通じて、相対的な金利水準の高さが評価される場面では高金利通貨は強含むものと考えています。

●当ファンド

引き続きマザーファンドの高位組み入れを維持する方針です。

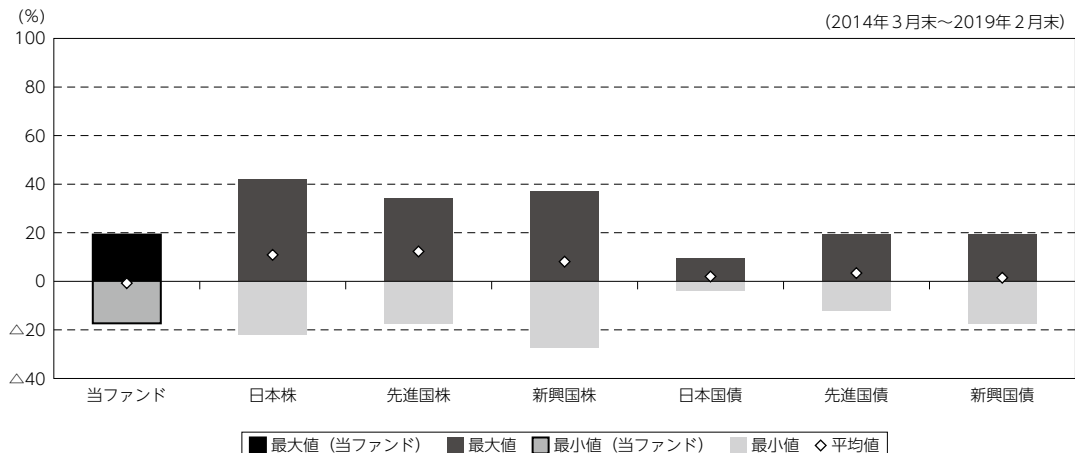
●グローバル高金利通貨マザーファンド

上記の想定の下、通貨配分については、金利水準等に大きな変化がなければ現状のポートフォリオを維持する方針ですが、市場動向などを勘案して機動的に対応します。デュレーションについては、世界経済の動向を巡り値動きの荒い展開が予想されることから、各国のインフレ動向や各通貨のイールドカーブの形状に留意しながら、ポートフォリオ全体で中立水準を維持する方針です。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	原則、無期限です。	
運用方針	グローバル高金利通貨マザーファンド受益証券を主要投資対象として、安定した収益の確保と投資信託財産の中長期的な成長を目指した運用を行います。	
主要投資対象	高金利通貨ファンド	グローバル高金利通貨マザーファンド受益証券。
	グローバル高金利通貨マザーファンド	世界各国の公社債。
運用方法	主としてグローバル高金利通貨マザーファンドへの投資を通じて、国際機関債や政府機関債、州政府債を中心とする信用力の高い公社債に実質的に分散投資を行い、安定した収益の確保と投資信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。公社債の実質組入比率は、原則として高位を保ちます。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。	
分配方針	分配対象額の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。分配金額は、経費控除後の利子・配当等収益を基礎として安定した分配を行うことを目標に決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。上記にかかわらず、上記にかかる分配金額のほか、分配対象額の範囲内で基準価額水準や市況動向等を勘案して委託者が決定する額を付加して分配する場合があります。留保益の運用については、特に制限を設けず、運用の基本方針に基づいた運用を行います。	

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	19.3	41.9	34.1	37.2	9.3	19.3	19.3
最小値	△17.3	△22.0	△17.5	△27.4	△4.0	△12.3	△17.4
平均値	△0.8	10.9	12.3	8.1	2.0	3.4	1.5

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2014年3月から2019年2月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

*各資産クラスの指数

日本株……東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株…MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債…NOMURA-BPI国債

先進国債…FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債…JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

※各指数については後掲の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

各資産クラスの騰落率について

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに、株式会社野村総合研究所が計算しております。株式会社野村総合研究所及び各指数のデータソースは、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、株式会社野村総合研究所及び各指数のデータソースは、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

当ファンドのデータ

当ファンドの組入資産の内容（2019年3月8日現在）

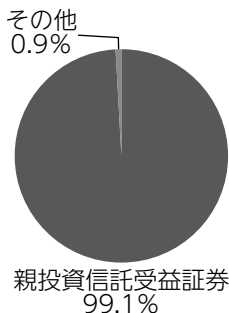
◆組入ファンド等

	第130期末
	2019年3月8日
グローバル高金利通貨マザーファンド	99.1%
組入銘柄数	1銘柄

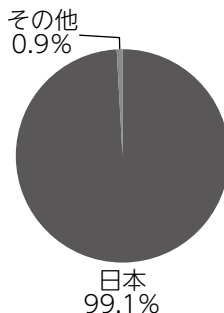
(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載してあります。

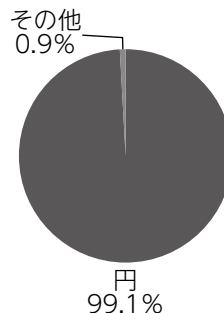
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示してあります。

(注3) その他は、純資産総額から有価証券等を差し引いた数字です。

(注4) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。なお、合計は、四捨五入の関係で合わない場合があります。

純資産等

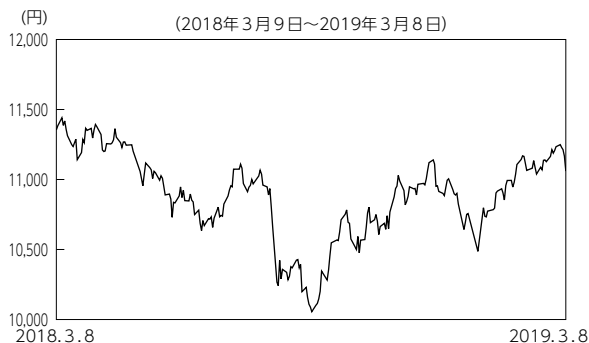
項目	第125期末	第126期末	第127期末	第128期末	第129期末	第130期末
	2018年10月9日	2018年11月8日	2018年12月10日	2019年1月8日	2019年2月8日	2019年3月8日
純資産総額	5,267,688,380円	5,466,377,214円	5,326,629,083円	5,178,633,865円	5,253,945,934円	5,192,700,572円
受益権総口数	12,535,031,028口	12,458,101,360口	12,350,067,112口	12,187,517,748口	12,134,610,400口	12,062,546,217口
1万口当たり基準価額	4,202円	4,388円	4,313円	4,249円	4,330円	4,305円

(注) 当作成期間（第125期～第130期）における追加設定元本額は36,299,396円、同解約元本額は649,968,216円です。

組入ファンドの概要

[グローバル高金利通貨マザーファンド]

◆基準価額の推移



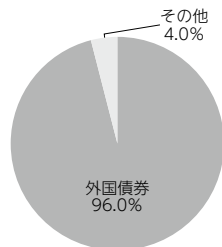
◆組入上位10銘柄

	銘柄名	業種/種類別	通貨	国(地域)	比率 %
1	INTL FINANCE CORP (国際金融公社) 10% 2019/6/14	特殊債券 (除く金融債)	ブラジルレアル	国際機関	8.3
2	EUROPEAN INVESTMENT BANK (欧州投資銀行) 4.75% 2021/1/19	特殊債券 (除く金融債)	メキシコペソ	国際機関	7.9
3	INTL FINANCE CORP (国際金融公社) 11% 2020/1/21	特殊債券 (除く金融債)	ロシアルーブル	国際機関	6.2
4	INTL BK RECON & DEVELOP (国際復興開発銀行) 1.5% 2020/7/31	特殊債券 (除く金融債)	ポーランドズロチ	国際機関	6.1
5	EUROPEAN INVESTMENT BANK (欧州投資銀行) 9% 2021/3/31	特殊債券 (除く金融債)	南アフリカランド	国際機関	5.7
6	INTL FINANCE CORP (国際金融公社) 6.375% 2022/4/11	特殊債券 (除く金融債)	ロシアルーブル	国際機関	5.6
7	EUROPEAN INVESTMENT BANK (欧州投資銀行) 5.375% 2021/6/7	特殊債券 (除く金融債)	英ポンド	国際機関	5.4
8	INTL BK RECON & DEVELOP (国際復興開発銀行) 5.75% 2019/10/28	特殊債券 (除く金融債)	インドルピー	国際機関	4.6
9	EUROPEAN BK RECON & DEV (欧州復興開発銀行) 27.5% 2020/9/18	特殊債券 (除く金融債)	トルコリラ	国際機関	4.5
10	EUROPEAN INVESTMENT BANK (欧州投資銀行) 2.8% 2021/1/15	特殊債券 (除く金融債)	オーストラリアドル	国際機関	4.4
組入銘柄数			31銘柄		

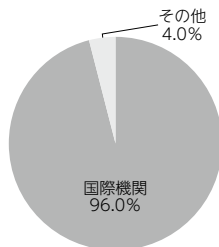
(注1) 比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載してあります。

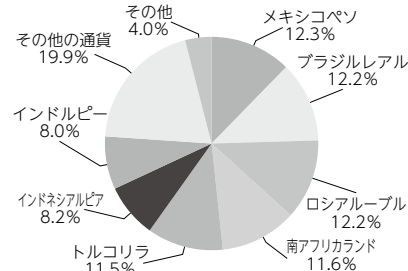
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) その他は、純資産総額から有価証券等を差し引いた数字です。

(注3) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。なお、合計は、四捨五入の関係で合わない場合があります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。

◆1万口当たりの費用明細

(2018年3月9日～2019年3月8日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) その他費用 (保管費用) (その他)	2円 (2) (0)	0.014% (0.014) (0.000)
合計	2	0.014

期中の平均基準価額は、10,912円です。

(注1) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。

(注2) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注3) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注4) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入してあります。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

- 「東証株価指数（TOPIX）」は、東京証券取引所第一部に上場されているすべての株式の時価総額を指数化したものです。同指数は、株式会社東京証券取引所（株東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、(株)東京証券取引所が有しています。
- 「MSCIコクサイ・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の主要先進国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「MSCIエマージング・マーケット・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、新興国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「NOMURA-BPI国債」は、野村證券株式会社が国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表すために開発した投資収益指数です。同指数の知的財産権その他一切の権利は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
- 「FTSE世界国債インデックス（除く日本）」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。
- 「JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド」は、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが公表している新興国の現地通貨建ての国債で構成されている時価総額加重平均指数です。同指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。また、同社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

